

呑川の植物レポート「2021年 5月～6月」

今年は梅雨入りが早いと天気予報に有りましたが、関東方面も近々梅雨に入るのでしょうか。

呑川沿いには多くのアジサイが見られます。ゆうつな梅雨空のもとでも私たちを楽しませてくれる花々は青色ピンク、白色と鮮やかな「紫陽花」です。また最近少なくなった「ビョウヤナギ」も花色が目を引きます。今回は雨に映える野草、花木を取り上げてみました。



「アジサイ」 紫陽花 落葉低木 アジサイ科

梅雨の景色には欠かせない花と思われている、アジサイは、八重咲きや一重咲などバリエーションがあり、紫陽花図鑑（花の手帳）には319種も紹介されている。大きくはガクアジサイの母種、ニホンアジサイとセイヨウアジサイの2種に分けられる。原産地である日本から中国経由で英国に渡り品種改良された。アジサイの原種の一つ、ガクアジサイは縁にだけ小花4枚が付く平たい形で、本当の花はごく小さい部分に見られる。

日本名のアジサイは、青い花が集まって咲くので「集真藍」（あさあい）が由来とされている。花色は土壌の影響により酸性土壌の場合青、アルカリ性土壌はピンクとあります。梅雨時期は挿し木で殖やせる。

花言葉：移り気、冷酷、また団らん、和気あいあいの書もあり。



「ビョウヤナギ」 美容柳 半落葉性低木 オトギリソウ科、

中国原産の花木、江戸時代観賞用として渡來した。地際から多くの細い枝をだし株立ちになる。新梢の茎は細く草本のように感じる。黄金色の花が上向きに咲き、多数の雄しべが突出するのが特徴。開花6～7月、枝先が垂れ下がり葉が柳に似ている。葉は十字に対生、鋸歯はない。黄金色の花は金糸のような長い雄しべが見られる。草丈約1m、半日日陰でも育つ、耐寒性、耐暑性があり公園の植栽に採用される。似た植物でキンシバイは同じオトギリソウ属で、花はビョウヤナギより小さい。花言葉：気高さ、多感



建物の外壁に成長したティカカズラ



ティカカズラの花（西蒲田一丁目）

「ティカカズラ」 定家葛 常緑つる性広葉中木 キヨウチクトウ科

呑川沿いでは建物の外壁に沿わした事例が見られますが、公園（久が原光児童公園）にも植えられています。5~6月に咲く五弁の花は3cm程で強い香りがあり、プロペラの形にみえます。葉や茎を切ると白い乳液が出る（有毒）、10月ころ成熟する果実は細長い袋状で種子（1cm）は白い綿毛（3cm）があり、風に乗って飛ぶ。和名は内親王を愛した藤原定家の伝説と云われている。樹が若いときは地上を這うように生育するが、適当な木や岩を見つけ付着根を使って上方に伸びる性質を持つ。また、地を這う時と木などによじ登ると時は葉の形が異なる。



ホタルブクロ（道々橋附近）



サンゴジュ（樹林寺）

「ホタルブロク」 蛍袋 キキョウ科、

日本原産、多年草、初夏から夏の前半（6~7月）にかけて釣鐘形の花を茎に多数咲かせる。花色は白、紫、ピンク色がある。昔から親しまれてきた花でチョウチンバナ、アメフリバナ、ホタルバナ、ツリガネソウなど別名が多い。草丈40~80cm、葉は披針形で鋸歯があり根性葉と違う形となる。5~8cm、全体に毛がある。日陰でも育ち、一度植えれば毎年増える。園芸品種もある。原産地は日本、中国、朝鮮。花言葉：忠実、正義

「サンゴジュ」 瑞樹 常緑広葉高木 スイカズラ科

日本で最も耐火力の強い樹木とされる。火災や熱に葉を晒しても水を保持してかなり耐えるため、防火の目的で植えられることもある。樹姿は直立する。白い花（5~6月）は甘く強い芳香があり昆虫が集まる。核果（8~10月）は真紅から黒く熟す。樹高は3~10m。秋に出来る赤い実が珊瑚に似ているとして名づけられた。

参考図書 雜草や野草がよくわかる本 著者、岩槻秀明 発行所、株式会社秀和システム

都市の樹木 著者、岩崎哲也 発行所、株式会社文一総合出版

一部 Wikipedia で検索しました。